

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771500040		
法人名	有限会社かるすと		
事業所名	グループホームかるすと		
所在地	本部町字豊原262-4		
自己評価作成日	令和6年11月13日	評価結果市町村受理日	令和7年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4771500040-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年 12月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食べる事、歩くことは最期まで自分で行うことをモットーに、本人の持てる力(出来ること、分かる事)を用いて維持できるよう、歌うこと、しゃべる事、散歩、手伝い、トイレでの排泄など、利用者それぞれの力に応じて支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各種ミーティング記録が整理されていて職員との情報共有、周知ができています。また、管理者はミーティングで利用者について話すときや日々の利用者ケアの実践を通して理念と意味を結びつけて伝えるようにしており、特に新入職員に対して理念を制限をするケアではなく「してもいい」「やってもいい」という発想で実践するよう説明して指導している。職員意見の反映については、利用者の覚醒状態について職員から提案があり、「起床」「食事」「活動」などの見直しを検討したり、入浴介助での介助量の負担増に対して、職員の案を聞いた上で代替案を提示してケアの質を保つバランスをとる工夫をしている。管理者は介護計画を職員に理解してもらうために書式を工夫して作成し職員が日々の記録を行っている。利用者家族からの意向に加えて職員ともサービス内容について意見交換を積極的に行うことで介護計画に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域の中で暮らすことの意義を理解し、つながりを持ちながら、いきいき暮らせるよう支援している	管理者はミーティングで利用者について話すときや日々の利用者ケアの実践を通して理念と意味を結びつけて伝えるようにしている。特に新入職員に対して理念を制限をするケアではなく「してもいい」「やってもいい」という発想で実践するよう説明して指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前のような関りは少なくなったが、徐々に家族や知人との面会や外出の機会が増え、隣人と同じ字の利用者が入居し尋ねて来たり、ホームの行事も再開した	近隣の住民との関係性は良好である。新規入居された利用者と近隣の住人が偶然同じ出身地であることが発覚して互いに旧交をあたためることがあった。自治会の区長からは地域の行事に関する情報提供をもらっており、関係性は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉祭りでホームの日常風景を紹介したり、パンフレットを配布したり、名桜大の学生さんの実習を受け入れ理解を広められるよう努めている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月インフルエンザ、8月コロナが発生し、予定通り出来ない時は日にちをずらして行っている。ホームの状況や取り組みを報告し、意見交換を行い、いただいた意見をミーティングで話し合い、サービス向上に活かしている	運営推進会議は、二度にわたる感染症流行による影響のため開催がままならないことがあったが、変則的に対面開催を行ってきた。事業所の様子を共有する場ができたことで構成員との意見交換が活発に行えており事業所運営に好影響を与えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の相談があったり、SOSネットワークの協力を言ったり、研修の提案を行ったり、関係作りにも努めている	地域で、行政と社協が介入している支援が必要なケースの受け入れ相談を受けている。実際に入居まで繋がっている。また、町内の認知症者の行方不明者の検索ネットワークに参加して検索依頼の情報提供に可能な範囲での協力と連携をとっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為や弊害の勉強会を行い理解し、施錠や4点柵など身体拘束を行わないよう取り組んでいる。又日常ケアの中で行動制限につながる行為は無いかミーティング時に取り上げて話し合っている	身体拘束適正化に関する指針が整備されている。3ヶ月に一回以上の頻度で委員会を開催して都度、身体拘束に該当する具体的な行為を列挙された資料を元に現状の話し合いが行われている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の勉強会を持ち理解し、おもに言葉や対応で心理的虐待になっていないか、日常のケアを振り返り、話し合い、気になる言葉はその都度注意し、防止に努めている	虐待防止に関する指針が整備されている。管理者は土地特有の方言と言葉の荒っぽさに留意しており慣れない中で利用者の尊厳を傷つけないよう定期的に職員にも問題提起をして具体的な例題で言葉、行動、対応など日々のケアを振り返り意見交換をして職員の自覚を促している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は資料の読み合わせを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明後、同意を得、署名捺印してもらっている。看取りに関しては他の家族と相談できるよう持ち帰りにしている。分からない点があれば面会時や電話で対応している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者から要望を聞いたり、家族さんは面会時に状態報告しながら話を聞くようにしている	意思疎通の図れる利用者が多くいるため要望を聞き取りやすい。利用者から活動内容に関する提案や要望があり「外出」の場合は支障なく反映させることが出来ている。また家族から要望があり通院時に必要な福祉車両の借用にも応えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の事や福祉用具、食材、ケアのことなど日常的に職員から意見や提案を聞き、他職員とも話し合い、反映している	管理者は職員が意見を言い易いようにミーティングや日々の中で出てくる声を大切にしよう心掛けている。利用者の覚醒状態について職員から提案があり、「起床」「食事」「活動」などの見直しを検討したり、入浴介助での介助量の負担増に対して、職員の案を聞いた上で代替案を提示してケアの質を保つバランスをとる工夫をしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行ったり、職員の体調や事情に配慮し、勤務調整を行い、継続して勤務できるようにしている。有給も希望通りに入れている。社労士を招いてハラスメントの研修を受けた	管理者は職員の希望休が取りやすいようなお互い様の職場の環境を整えている。職員もお互い様の助け合いなど融通を利かせて実践している。夜勤業務に入る職員には6ヶ月に一回の健康診断を自身のかかりつけにて行うよう指導しているが1人を除き実現していない。	夜勤業務に入る職員の労務管理は職場の責任であり就業規則にも明記されていることを再度理解した上で健康診断の早期実現の促しと継続方法の検討を期待したい。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役場や社協主催の研修やホーム内の勉強会などに参加し、スキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートで町内のケアマネ連絡会の情報交換会や通所利用者のケアマネさんが来所する際や研修時のグループワークの中で交流している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調の際、やりたいこと、好きなこと、過ぎかた、要望などを聞き、ご家族と見学にいらした時は同じ字の職員や利用者とは交流してもらい安心して入居できるようにしている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での暮らしの状態や本人、家族の困りごと、要望など話しを聞き、グループホームでの生活や対応を説明して、安心して入居できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望していた利用者さんがまずデイを利用したが、同性がいないので排泄介助や入浴を拒否し、他のサービスへ移行した		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で掃除や調理、洗濯物干し、たたみ、チリ箱折りなど利用者の力を貸してもらっている。調理方法や行事のことも教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や病院受診の付き添い、法事、帰宅、選挙投票など家族の協力で行っている。幻視があっても落ち着かない時は家族へ連絡を入れ、話しを聞いてもらったり、面会に来てもらったりしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	筆の師匠をされていた利用者はお弟子さんや知人と交流を続けている。ご主人のいる利用者は週1、2回面会で交流している。病院受診の後、帰宅し家族や近所の方と交流している利用者さんもいる	筆の師匠をしていた利用者とかつてのお弟子さんとの関係性が良好で面会による交流が続いている。病院受診は原則家族で対応しているが、その際に一時帰宅や知り合い近隣との交流のある利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や同姓出身などコミュニケーションがとりやすいように席を配置したり、玄関や廊下に椅子やソファを置き、自然に会話ができるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も何年忌の後にホームを訪ねてくれたり、年賀や中元などが送られて来て交流している。一旦退所した利用者さんが再度入居の相談もあった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常会話の中から本人の希望や思いをくみ取るようにし、会いたい人や帰宅希望がある際は家族に伝えている。ケアプラン立案の際は分かりやすい言葉でやりたいこと、行きたい所、手伝ってもらいたいことなど聞いて意向を把握している	計画作成も兼務している管理者は利用者に直接質問して意向を把握したり、日々の言動の中から推察するなど利用者のやりたい、こうしたいを大切にしている。また家族から以前の暮らしについても聞き取りをし家族の希望する利用者の心理面への配慮に関する情報収集もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居や面会の際に家族さんから聞き取りしたり、前ケアマネさんから情報を得て、ホームでの生活に活かせるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活習慣や本人の希望、心身状態に合わせて、個別の過ごし方を決めている。日中は離床しディールームでの活動を取り入れている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からやりたいことや困っていることなどを聞き取り、家族さんからは面会時に意向を聞くようにしている。原案作成後、職員で話し合いを持ち、介護計画に活かしている	計画作成も兼務している管理者は介護計画を職員にも理解してもらうためにサービス内容のモニタリングとして工夫された書式を作成し、職員が日々の記録を行っている。利用者家族からの意向に加えて職員ともサービス内容について意見交換を積極的に行うことで介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録日誌にバイタルや日々の様子、気づきなどを記入し、職員間で共有している。状態の変化や薬の変更等があれば申し送りノートで情報共有し、実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健診で腫瘍と言われ、ホームで看とるために訪問診療と、訪問看護を用い、支援した。結果は別の病気と分かり中止となった。車いすの利用者さんは家族さんへ福祉車両を貸し出して外出を支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や歯科、美容室、薬局、商店など把握し、利用者の生活に利用している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医は継続している。主治医から他診療を勧められるときは家族さんの協力で受診している。家族さんの希望により訪問診療に切り替えることもある	現在5名の利用者が訪問診療での診察をし、通院受診を継続されている方は家族が対応し、緊急時の場合は管理者が対応している。就労中の家族の調整が困難になったり、利用者の状態が変化し通院負担が大きくなったなどで訪問診療へ移行の希望となる際も不安なく円滑に医療が受けられるように、配慮しながら進めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療担当の看護師がおり、電話連絡で相談したり主治医に取り次いでもらっている。ストマー装着の利用者はストマー専門の看護師に相談、指導を得ている。家族さんが外来受診する際は必要に応じて同行し、情報提供や相談を行い適切な診察が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は身体レベルや服薬などの情報提供を行い、看護師や相談員と関係作りを行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で説明を行い、終末期が近づいた時、主治医と本人、家族と話し合いを持ち、訪問診療、訪問看護、家族、介護者の連携で支援に取り組んでいる	入居契約時に本人、家族へ重度化や終末期について、事業所の方針を説明し、意向を確認している。状態に変化があった際は、話し合いを持ち、主治医の指導のもと、管理者、訪問看護、職員がチームとなって利用者、家族に寄り添った看取りケアに取り組んでいる。入院中の利用者が住み慣れた事業所で家族や知人との時間を希望し退院後、看取りの対応をした事例がある。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別のレスキューシートを作成し、救急搬送する際の手順は新人職員には必ず話している。応急手当はその都度やり方を見てもらい、実践してもらい身につくようにしている	利用者の急変や事故発生時に適切な対応が出来るように、緊急フローチャートを作成し、確認しやすい場所へ掲示している。管理者は事故及び腰痛予防対策の社外研修に参加、伝達し、利用者や支援者の安全管理に留意している。動線確保に居室内外の家具の配置工夫や危険予知訓練を行い、事故の再発防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	年2回火災避難訓練をGHもとぶと連携して行い、その際出てきた課題や疑問の振り返りを行っている。感染症予防のマニュアルを作成し、実際コロナやインフルエンザが発生した後に検討会を行った	夜間想定した消防訓練の実施が記録から確認でき、12月または1月に日中を想定した避難訓練が予定されている。事業所は通常より太陽光発電を活用しているが、停電に備えて発電機もあり、災害時の電気が確保されている。感染症については、検討委員会を設置し、研修の開催や指針の整備が記録から確認出来た。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴誘導の際はその利用者の側で声掛け誘導し、名前の呼び方はどのように呼ばれていたか確認して声掛けするようにしたり、夕方落ち着かない方は一緒に夕飯を作ろうと誘い禁止言葉を使わないようにしている	居室はクランクインで、直接プライベートスペースが見えない間取りに作られプライバシーの確保がされている。言葉かけやスピーチロックに留意し、人格を尊重した実践を心掛けている。管理者は職員へ気になる場面に遭遇した際や定例ミーティングにて、個人情報の取扱いに対し説明し、秘密保持の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものや行きたい所、やりたいことを聞いたり、休憩するしない、散歩するしない、手伝いやるやらないは自己決定してもらい、服を選べる方は自分で準備してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決めているが、身体状態や本人の希望にそって、過ごし方を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は本人に任せ、選べない方は職員がコーディネートしたり、髪型はカットの時、美容師さんに要望している		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげとりや野菜のカットをメニューに合わせて切ってもらったり、一緒に準備し、食事は同じテーブルで行い、配膳、下膳も利用者が行っている	職員と調理員が3食調理し、利用者も一緒にパイヤ、ニンジンの千切りなど簡単な下ごしらえから配膳や下膳も付き添い見守りのもと行っている。献立はリクエストに応じながら、季節の旬な食材を取り入れている。職員は利用者と同じ食事を一緒に摂り、和やかな雰囲気での食事の促進を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量や形態は身体状態や咀嚼力に合わせて調整し、好物は少し多めに盛り付けたり、水分摂取の少ない方はポカリやカルピスなど好みの物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア誘導を行い、歯ブラシ、コップの準備をしたり、うがいを促したり、自力で出来る方は時間が経っても良いように居室で行っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導を行っている。尿量に合わせてパットを代えている。夜間帯はベットを居室トイレに近づけて、安全を確保しながら、自力で排泄できるようにしている	入居後、排泄パターンの把握、評価・分析を行い、状態に合わせ、トイレ誘導や布パンツ・パットの変更調整をしている。トイレでの排泄が維持できるように、個々に合わせ、ソファや家具の配置を工夫し、居室内のトイレまでの動線確保を行い、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や芋類、ヨーグルトなど食物繊維を取り入れ、散歩やラジオ体操などの運動を取り入れて排便を促している。便秘症の方はマグミット錠を処方してもらっている		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日は決めているが、受診や外出、体調に合わせて、その都度入浴支援している	基本週3回シャワー浴で、利用者の意向や生活習慣に合わせ、柔軟に入浴支援の対応が出来るように体制を取っている。ボディソープが馴染みでない方や皮膚の弱い方は固形石鹸と個々の状態に合わせ、快適な入浴に配慮している。姿勢保持が困難な利用者に対し、安全面と負担を考慮し、ストレッチャーの活用を取り入れ、個々の状態に沿って調整を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の熟眠の為、散歩や日中の活動を促し、休憩時間を30分から1時間程度になるよう支援している		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬と病名を一覧表にして介護日誌に綴り、いつでも確認できるようにしている。症状の変化がある際は副作用を確認し、主治医に指示を得ている。薬の準備担当と与薬担当を代え、ダブルチェック出来るようにマニュアルを直した	安全な服薬支援の為、薬の準備や与薬など担当者を明確にするなど服薬マニュアルの整備を行っている。管理者は担当医へ幻視、幻聴の症状より活気が乏しくなった利用者に対し報告・相談し、減薬調整後、体調を取り戻した事例や安定している利用者の状態を細やかに報告し、服薬の負担軽減に繋がった事例があり、症状の変化の確認や医療機関との連携に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜のカット、テーブル拭き、掃き掃除、洗濯物干し・たたみ、チリ箱折り、三線弾きなど利用者さんの得意や力を活かして役割を持っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はほぼ毎日行い、自力歩行で散歩できる方は自由に出入りし、家族や知人の協力で帰宅やドライブに出かけている。車いすの方は家族の希望に沿って送迎したり、車の貸し出しを行っている	天候に合わせてほぼ毎日、利用者のタイミングで自由に事業所の外周や区内の散歩をしたり、玄関先やバルコニーで外気浴を楽しんでいる。役場やスーパーへの買い物や帰宅願望のある方へドライブを行い、気分転換を図っている。外出の要望に対して、事業所内や家族の協力を得ながら実現できるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、コンビニで好きな物を購入していたが、転倒後は5分以内で帰ホームしている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由にやりとりしている。家族から電話がきて取り次いだり、遠くの家族とビデオ通話している利用者もいる		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽の光はカーテンで調整したり、テレビなどの音量が大きくなりすぎないように調整したり、壁は掲示物が多くなならないよう調整している。テーブルに季節の草花を飾り楽しんでいる	食堂兼居間は台所と一体的な作りで、利用者の五感を刺激する調理の音や匂いが感じられる空間になっている。温かみのある和室は、いつでも寛げる様に開放的で憩いの場となっている。玄関先や通路の壁には、福祉まつりへ出展した手作りの小物や貼り絵などの作品が飾られ、視覚の楽しみ、達成感や充実感が得られる機会に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関、ディールームに椅子やソファ、テーブルを配置して、自由にくつろいだり、日光浴出来るよう工夫している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は使い慣れた家具や寝具、服、写真を持参してもらい、本人と家族一緒に片付けてもらい、居心地よく過ごせるようにしている	居室はクランクインで、直接プライベートスペースが見えない間取りに作られている。入居前に、新しいものではなく使い慣れた毛布など寝具や家具、本人の思い出の品や写真の持ち込みを家族と相談しながら、その人らしい居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を表示し自力で行けるようにしたり、新聞を定位置に置いて読めるようにしたり、夜間帯も自力でトイレに行けるようソファや椅子を置いたり、ベットを近づけて工夫している		